

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成22年1月28日(2010.1.28)

【公開番号】特開2009-131657(P2009-131657A)

【公開日】平成21年6月18日(2009.6.18)

【年通号数】公開・登録公報2009-024

【出願番号】特願2009-62239(P2009-62239)

【国際特許分類】

A 6 1 B 8/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 8/00

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月6日(2009.11.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

本体筐体と、操作スイッチ群を備えた操作装置と、前記本体筐体と前記操作装置とを連結する片持ち部材からなる可動アームとを含んで構成し、

前記可動アームは、前記操作装置を前記本体筐体に沿って任意の位置で固定させる昇降機能機構部と、前記可動アームの移動時において前記操作装置の姿勢を維持する姿勢維持機構とを有していることを特徴とする超音波診断装置。

【請求項2】

請求項1に記載の超音波診断装置において、前記姿勢維持機構は、前記可動アームの移動時において前記操作装置の姿勢を維持するリンク機構を備え、当該リンク機構は、前記片持ち部材の一端に接続され、前記本体筐体に前記昇降機能機構部を固定させる第1ベース部と、前記第1ベース部と前記片持ち部材とを連結するバネ部材とを備えることを特徴とする超音波診断装置。

【請求項3】

請求項1に記載の超音波診断装置において 前記片持ち部材の一端が前記回転軸を介して回転可能に固定されている前記本体筐体のアーム移動溝が、前記本体筐体前面の片側に形成されていることを特徴とする超音波診断装置。

【請求項4】

請求項3に記載の超音波診断装置において、前記アーム移動溝を覆う保護カバーを有することを特徴とする超音波診断装置。

【請求項5】

請求項1記載の超音波診断装置において、

前記可動アームは、前記姿勢維持機構により前記操作装置の姿勢が維持された状態で、前記本体筐体の投影面積内に收まる第1姿勢から、

前記本体筐体から少なくとも一部を張り出す第2姿勢を取り得るように前記操作装置を移動させることを特徴とする超音波診断装置。

【請求項6】

請求項5に記載の超音波診断装置において、

前記可動アームの先端部と前記操作装置との結合部に、可動アームの移動方向と直交する移動レールと、該移動レールを移動する移動レール取付部を設け、

前記可動アームの当該移動レール間の移動によって、前記第1姿勢から前記第2姿勢を取り得ることを特徴とする超音波診断装置。